

平成27年7月の鉱工業活動 図表集

平成27年9月14日
経済解析室

URL : <http://www.meti.go.jp/statistics/tyo/iip/result-1.html>

平成27年7月 鉱工業指数(確報)各指数の状況

生産・出荷・在庫・在庫率指数

月次	生産	出荷	在庫	在庫率
季調済指数	97.5	96.2	113.7	112.2
前月比	▲ 0.8%	▲ 0.4%	▲ 0.8%	▲ 1.1%
指数水準	H27.5 97.2以来 ①H21.2 76.6 ②H21.3 77.6 ③H21.4 81.0	H27.5 96.0以来 ①H21.2 79.2 ②H21.3 79.7 ③H21.4 80.7	H27.5 112.9以来 ①H23.3 97.7 ②H22.8 98.3 ③H21.12,H22.9 99.1	H27.1 109.0以来 ①H20.2 94.6 ②H20.4 95.9 ③H20.5 97.0
前月比の動き	2か月ぶり▲ (H27.5以来)	2か月ぶり▲ (H27.5以来)	2か月ぶり▲ (H27.5以来)	2か月連続▲ (H27.6～当月)
前月比幅	H27.5 ▲2.1%以来 ①H23.3 ▲16.5% ②H21.1 ▲8.8% ③H21.2 ▲8.6%	H27.5 ▲1.9%以来 ①H23.3 ▲15.7% ②H21.1 ▲9.5% ③H20.12 ▲7.1%	H27.5 ▲0.8%以来 (超) H25.11 ▲1.4%以来 ①H23.3 ▲5.8% ②H21.2 ▲3.9% ③H21.3 ▲3.1%	H27.6 ▲1.6%以来 ①H23.6 ▲11.7% ②H21.6 ▲6.7% ③H21.3 ▲6.0%
前年同月比(原指数)	0.0%	▲ 0.8%	2.7%	1.8%
前年同月比の動き	—	2か月ぶり▲ (H27.5以来)	15か月連続+ (H26.5～当月) ・直近で15ヶ月以上連続+ 22か月連続+ (H23.5～H25.2)	15か月連続+ (H26.5～当月) ・直近で15ヶ月以上連続+ 20か月連続+ (H20.3～H21.10)
前年同月比幅	I H22.3 29.2% II H22.2 28.8% ①H21.2 ▲37.2% ②H21.3 ▲32.7%	H27.5 ▲3.2%以来 ①H21.2 ▲36.1% ②H21.3 ▲32.1% ③H21.1 ▲30.9%	H27.6 4.0%以来 I H24.3, 4 12.1% II H23.8 9.0% III H23.9 8.1%	H27.5 6.4%以来 I H21.2 64.6% II H21.1 54.8% III H21.3 47.9%

1) ▲はマイナス

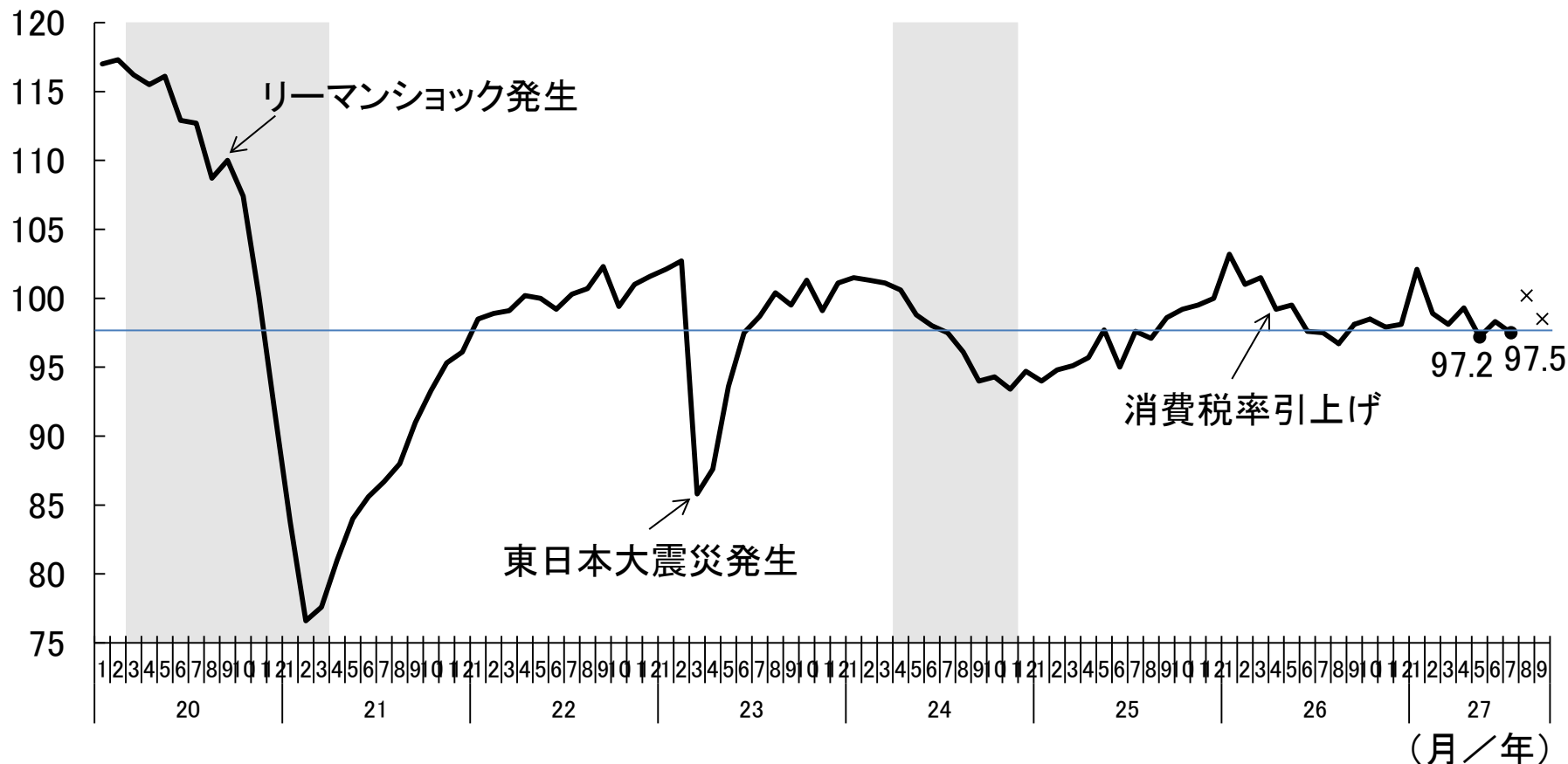
2) I～Ⅲは22年基準における最大値から上位3位まで、①～③は最小値から下位3位までの数値

3) 【 】内は22年基準以外

鉱工業生産指数の動向

- 平成27年7月の生産指数は97.5(前月比▲0.8%)と2か月ぶりの低下。
- 平成27年5月の97.2以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



- (注) 1. 鉱工業指数(IIP)とは、月々の鉱工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鉱工業全体の動きを示す代表的な指標。
2. ×は「製造工業生産予測調査」における2か月の前月比の値を鉱工業生産指数にあてはめて計算した予測値。
3. シャドー部分は景気後退局面。

鋳工業生産を大きく動かした品目

業種別

		業種・品目名	前月比	寄与率
○ 鋳工業生産を上昇方向へ引張った3業種の中で上昇への影響度が大きい2品目	1位の業種	化学工業	2.5%	38.3%
	品目	プラスチック 化粧品	6.9% 3.0%	11.8% 9.5%
	2位の業種	金属製品工業	3.1%	15.2%
	品目	建設用金属製品 その他の金属製品	23.4% 2.9%	18.8% 5.9%
	3位の業種	石油・石炭製品工業	2.7%	5.3%
	品目	石油製品	2.9%	5.4%
○ 鋳工業生産を低下方向へ引張った3業種の中で低下への影響度が大きい2品目	1位の業種	電子部品・デバイス工業	▲ 3.8%	▲ 39.9%
	品目	集積回路 電子部品	▲ 4.6% ▲ 2.8%	▲ 18.3% ▲ 14.2%
	2位の業種	輸送機械工業	▲ 1.4%	▲ 33.5%
	品目	自動車部品 自動車ボデー	▲ 2.0% ▲ 11.0%	▲ 16.3% ▲ 7.0%
	3位の業種	情報通信機械工業	▲ 8.3%	▲ 27.8%
	品目	電子計算機 その他の情報通信機械	▲ 19.7% ▲ 9.0%	▲ 32.3% ▲ 2.7%

寄与率: 生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い
全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら▲100%になる

※ **業種別** **全体** 内の各品目は、個別品目ではなく、個別品目を統合した分類によるもの。

全体

		品目名	前月比	寄与率
○ 鉱工業生産を上昇方向 に引っ張った3品目	1位	建設用金属製品	23.4%	18.8%
	2位	開閉制御装置・機器	10.3%	17.4%
	3位	半導体・フラットパネル製造装置	6.6%	14.0%
○ 鉱工業生産を低下方向 に引っ張った3品目	1位	電子計算機	▲ 19.7%	▲ 32.3%
	2位	生活関連産業用機械	▲ 25.0%	▲ 18.7%
	3位	集積回路	▲ 4.6%	▲ 18.3%

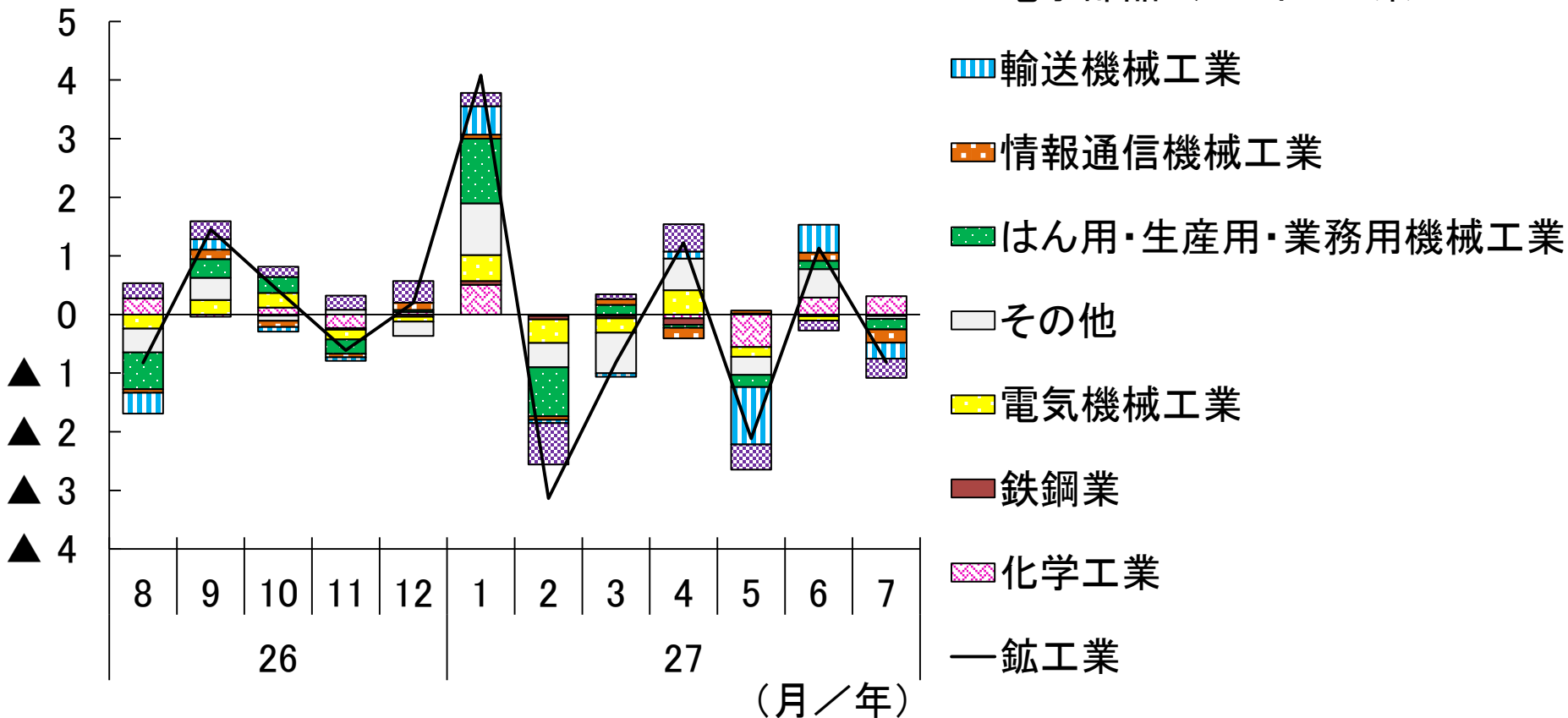
財別 (=用途別)

	解説	品目名	前月比	寄与率
非耐久 消費財	食料品や衣料品など 家計で購入される製品	非耐久消費財	2.0%	33.5%
		乳液	27.7%	6.9%
		合成洗剤	7.5%	5.7%
建設財	鉄骨やセメントなど 建設投資に向けられる製品	建設財	2.7%	18.3%
		橋りょう	49.5%	17.6%
		鉄骨	6.2%	2.3%
耐久 消費財	テレビや電気冷蔵庫など 家計で購入される製品	耐久消費財	▲ 0.8%	▲ 10.5%
		セパレート形エアコン	▲ 9.1%	▲ 8.4%
		デスクトップ型パソコン	▲ 16.8%	▲ 3.1%
資本財	クレーンや金属工作機械など 設備投資に向けられる製品	資本財(除. 輸送機械)	▲ 1.6%	▲ 41.6%
		マシニングセンタ	▲ 15.1%	▲ 14.9%
		外部記憶装置	▲ 34.7%	▲ 12.1%
生産財	原材料として投入される製品	生産財	▲ 1.0%	▲ 63.1%
		アクティブ型液晶素子(中・小型)	▲ 17.7%	▲ 24.6%
		プラスチック製機械器具部品	▲ 4.8%	▲ 9.7%

鉱工業生産への業種別寄与度分解

- 平成27年7月の生産指数(前月比、季節調整済)は、電子部品・デバイス工業などが低下したため、前月比▲0.8%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

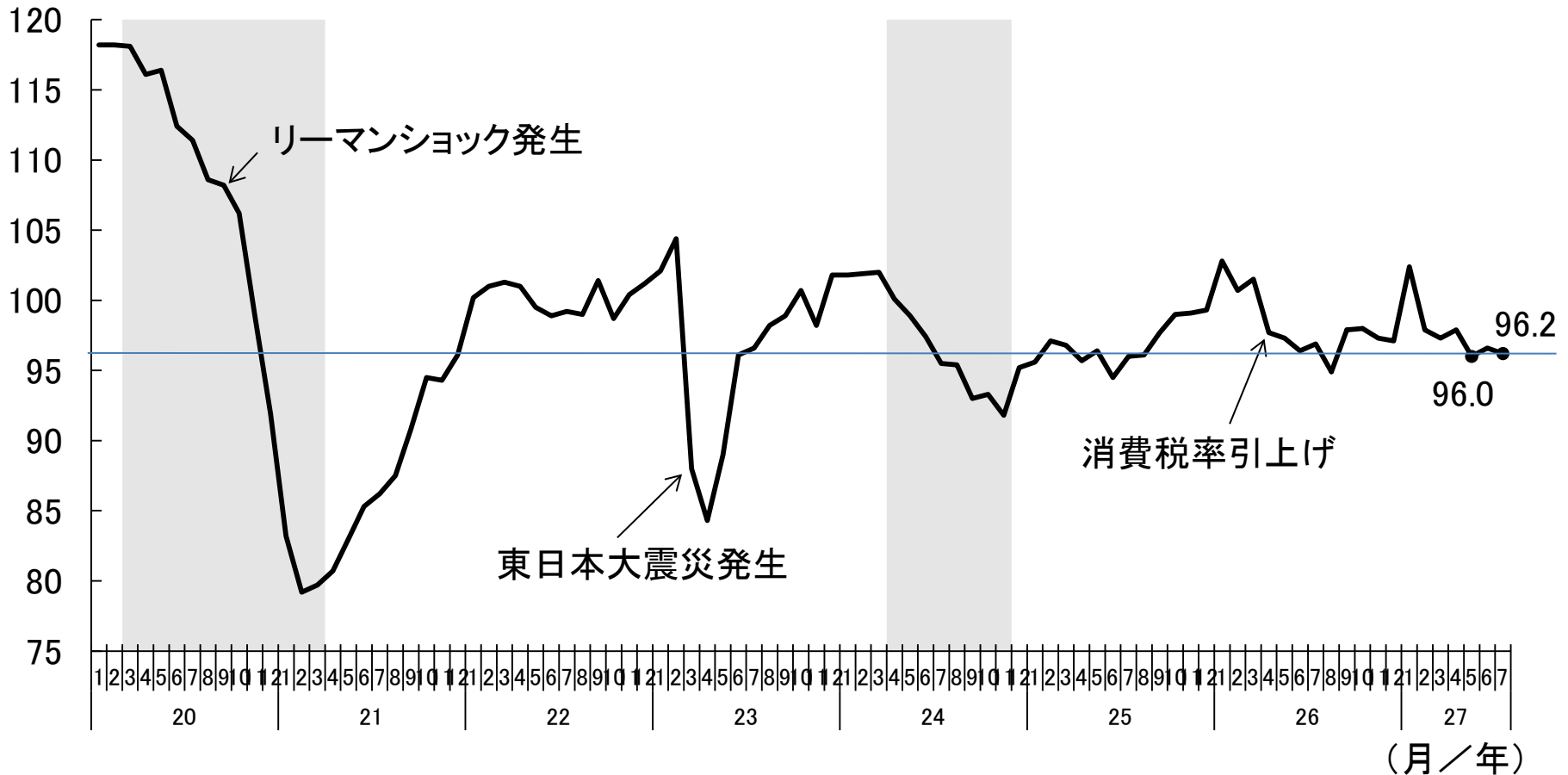


(注)その他には、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、プラスチック製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、食料品・たばこ工業、その他工業、鉱業が含まれる。

鉱工業出荷指数の動向

- 平成27年7月の出荷指数は96.2(前月比▲0.4%)と2か月ぶりの低下。
- 平成27年5月の96.0以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

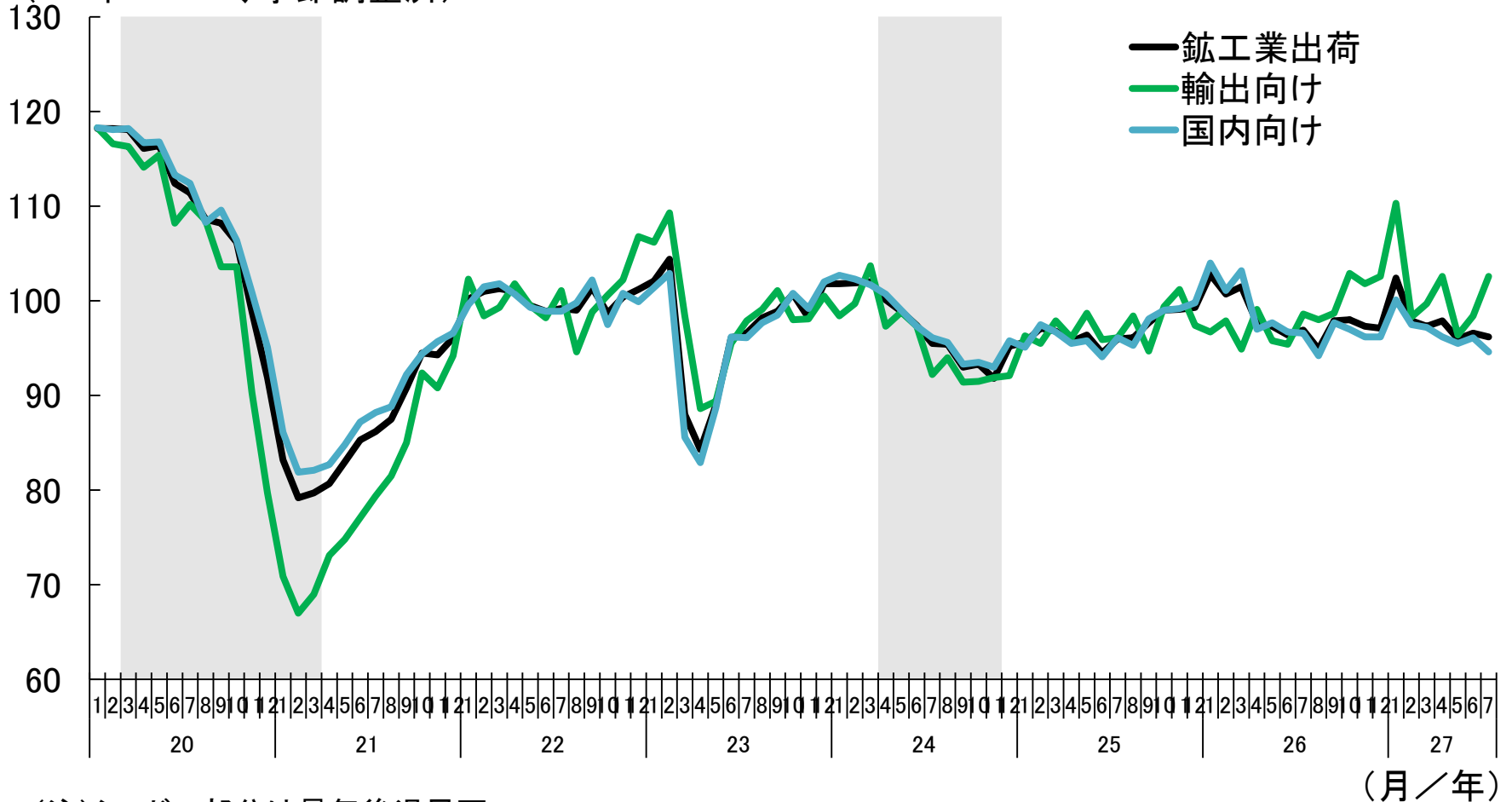


(注)シャドー部分は景気後退局面。

出荷内訳表の動向

- 平成27年7月の鉱工業出荷は96.2(前月比▲0.4%)と2か月ぶりの低下。
- 内訳をみると、輸出向けは102.6(前月比4.3%)と2か月連続の上昇となったものの、国内向けは94.6(同▲1.6%)と2か月ぶりの低下となった。

(22年=100、季節調整済)

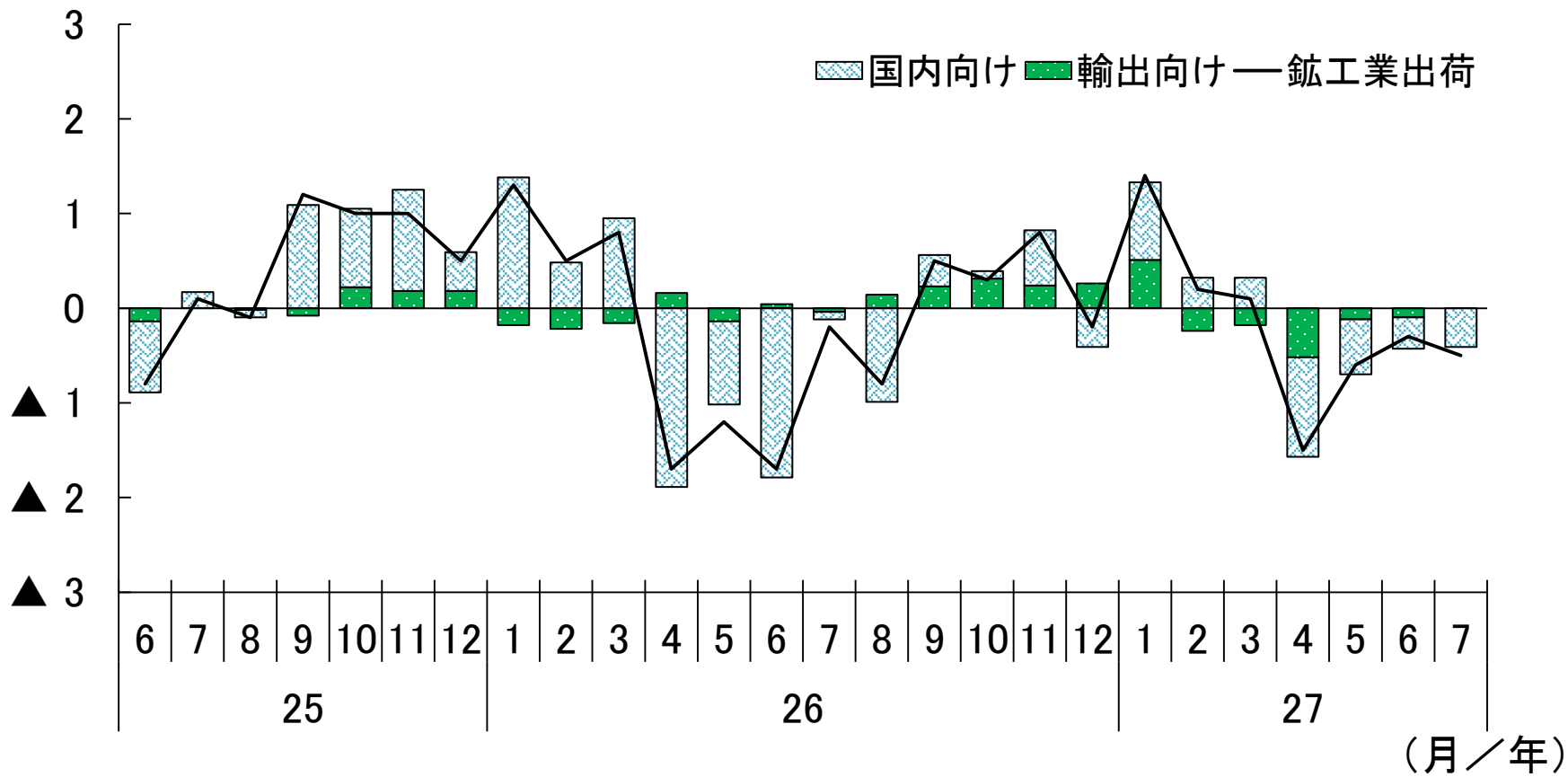


(注)シャドー部分は景気後退局面。

出荷内訳表(後方3か月移動平均・前月比寄与度)の動向

- 後方3か月移動平均で均してみると、鉱工業出荷の前月比低下幅は再び拡大。国内向け出荷の低下が足を引っ張っている。

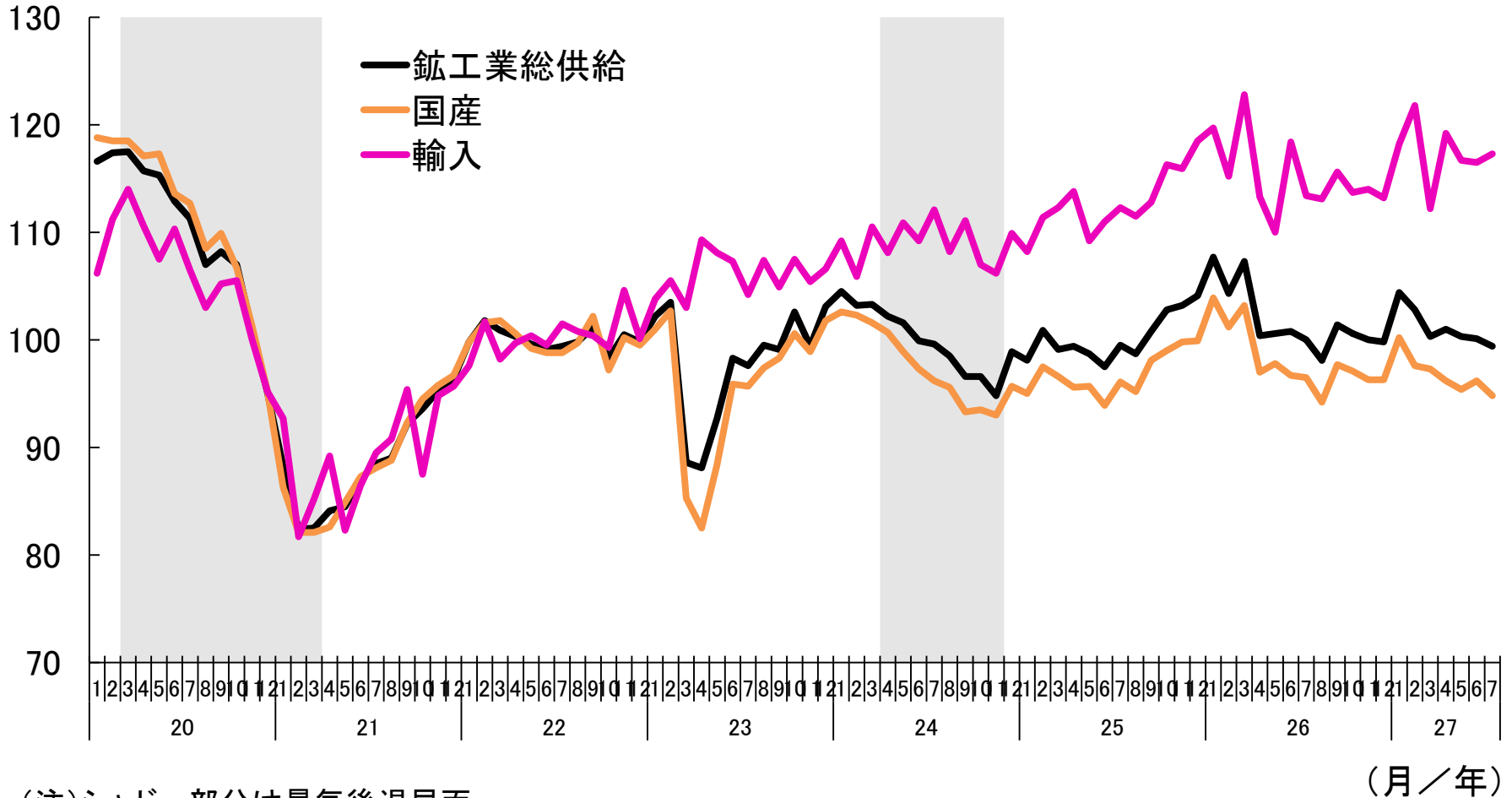
(季節調整済、前月比、%、%ポイント)



総供給表の動向

- 平成27年7月の鉱工業総供給は99.4(前月比▲0.7%)と3か月連続の低下。
- 内訳をみると、輸入は117.3(前月比0.7%)と3か月ぶりの上昇となったものの、国産は94.8(同▲1.5%)と2か月ぶりの低下となっている。

(22年=100、季節調整済)



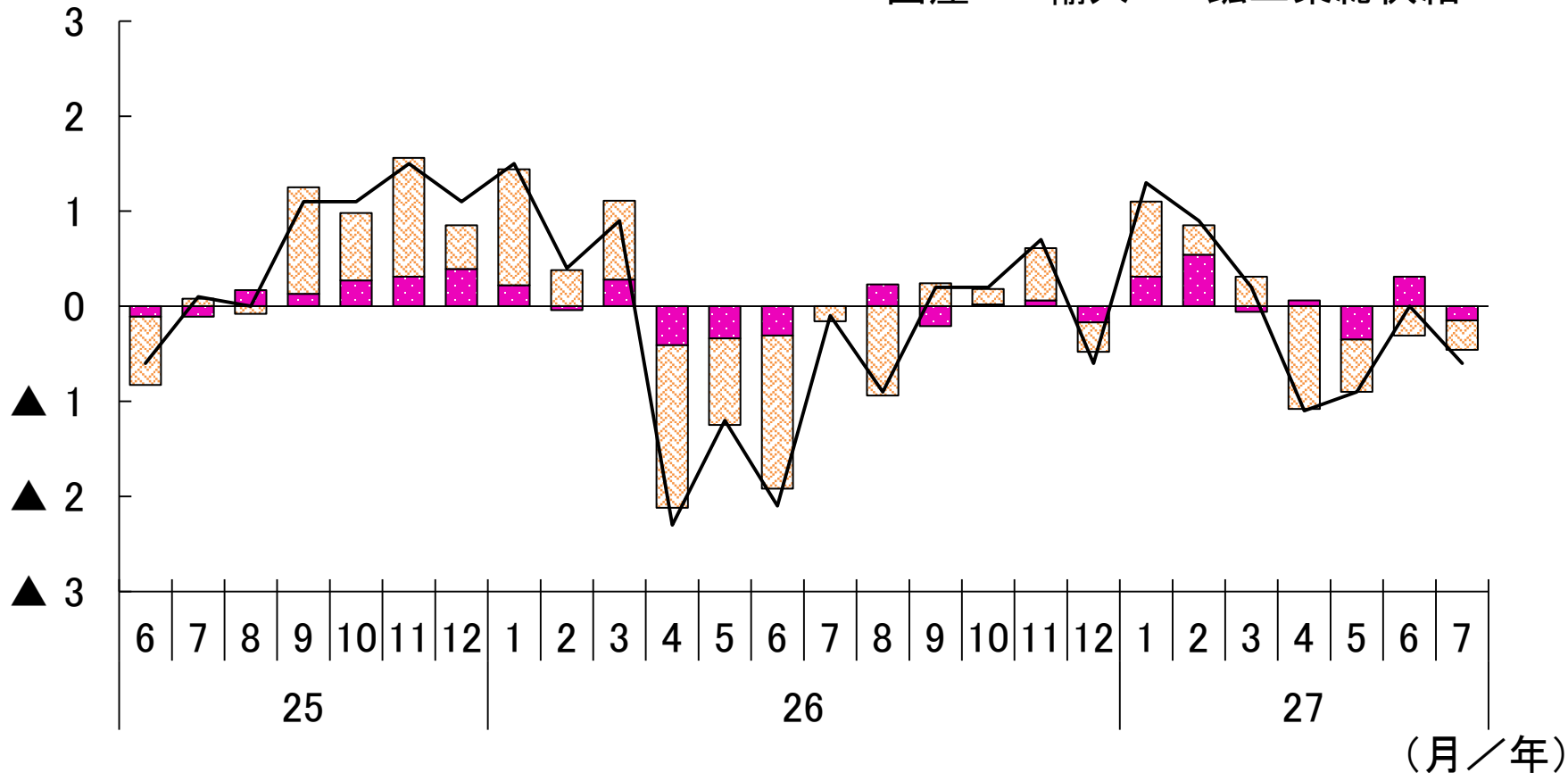
(注)シャド一部分は景気後退局面。

総供給表(後方3か月移動平均・前月比)の動向

- 後方3か月移動平均で均してみると、鋳工業総供給の低下幅が再び拡大している。
- この背景には、国産品の供給が引き続き低下していることに加えて、輸入品の供給が再び低下したことが影響している。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

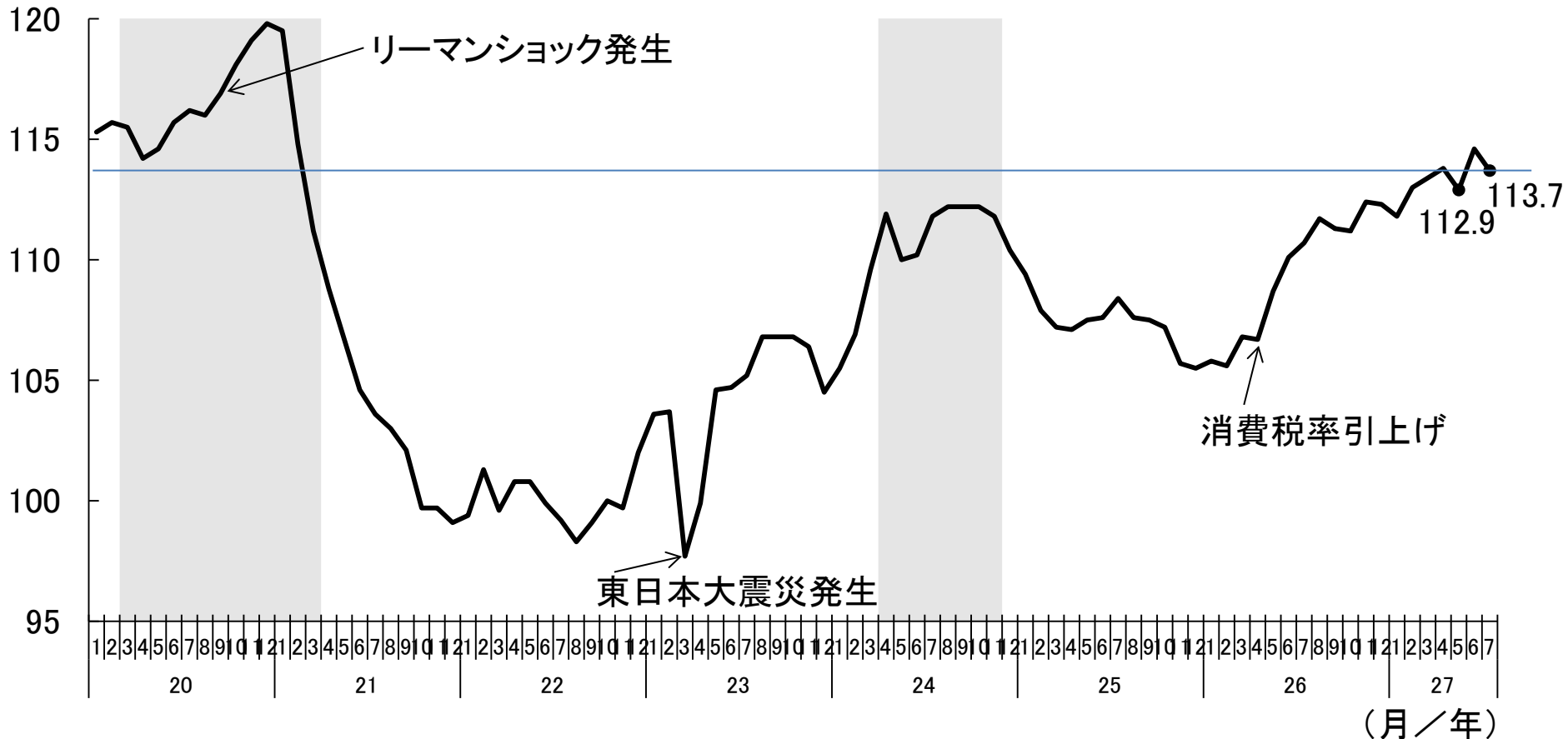
国産 輸入 鋳工業総供給



鋳工業在庫指数の動向

- 平成27年7月の在庫指数は113.7(前月比▲0.8%)と2か月ぶりの低下。
- 平成27年5月の112.9以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

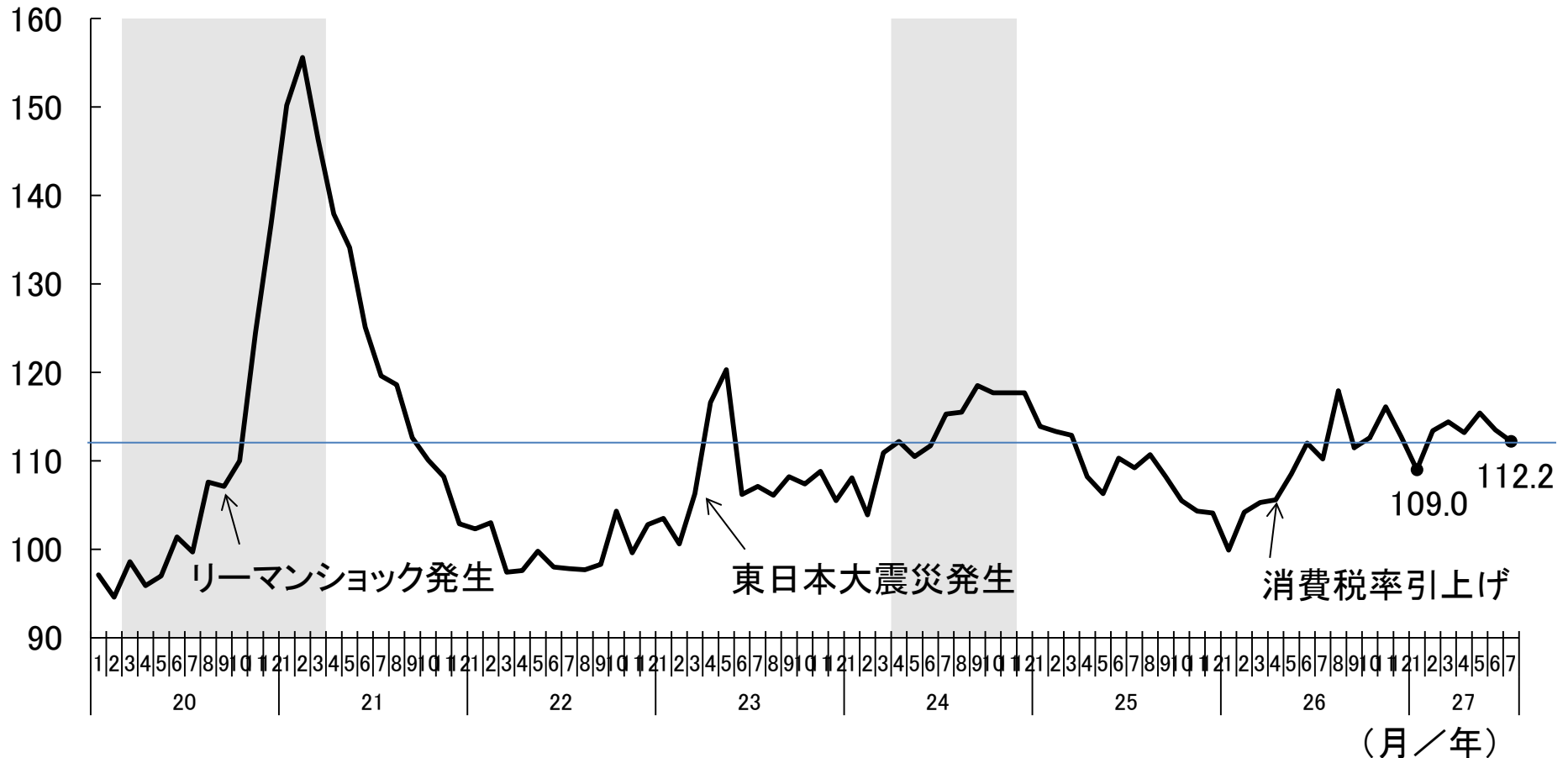


(注)シャドー部分は景気後退局面。

鉱工業在庫率指数の動向

- 平成27年7月の在庫率指数は112.2(前月比▲1.1%)と2か月連続の低下。
- 平成27年1月の109.0以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注)シャド一部分は景気後退局面。

平成27年7月 稼働率・生産能力指数の状況

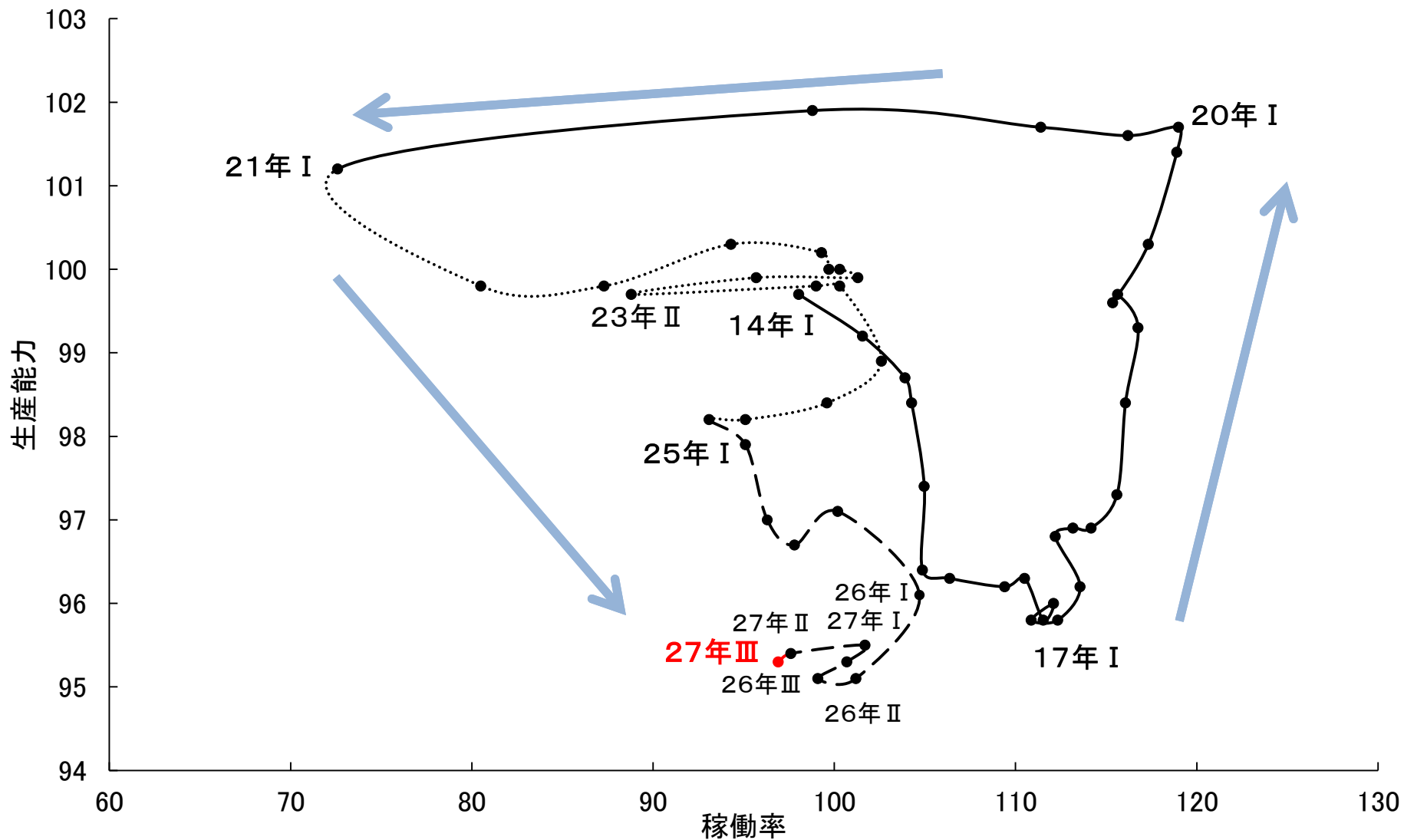
月次	稼働率	生産能力
季調済指数	96.9	95.3 (原指数)
前月比	▲ 0.2%	▲ 0.1%
指数水準	H27.5 96.4以来 ①H21.2 69.3 ②H21.3 70.3 ③H21.4 77.2	H26.12 95.3以来 (超) H26.11 95.2以来 ①H26.7, 8 95.0 ②H26.6, 9 95.1 ③H26.4, 10, 11 95.2
前月比の動き	2か月ぶり▲ (H27.5以来)	2か月連続▲ (H27.6～当月)
前月比幅	H27.5 ▲3.0%以来 ①H23.3 ▲21.7% ②H21.1 ▲12.0% ③H21.2 ▲11.3%	H27.6 ▲0.1%以来 (超) H26.6 ▲0.2%以来 ①H21.4 ▲1.2% ②H26.1 ▲1.1% ③H24.1, H26.4 ▲0.9%
前年同月比(原指数)	▲ 2.0%	0.3%
前年同月比の動き	7か月連続▲ (H27.1～当月) ・直近で7か月以上連続▲ 11か月連続▲ (H24.8～H25.6)	4か月連続+ (H27.4～当月) ・直近で4か月以上連続+ 4か月連続+ (H22.6～H22.9) (超) 44か月連続+【H17.5～H20.12】
前年同月比幅	H27.5 ▲6.8%以来 ①H21.2 ▲43.9% ②H21.3 ▲40.5% ③H21.1 ▲35.0%	H22年基準 II H27.6 0.3%以来 (超) H22.8 0.4%以来 I H22.8 0.4% II H22.7, H27.6 0.3% III H22.6, 9, H27.4, 5 0.2%

1) ▲はマイナス

2) I～Ⅲは22年基準における最大値から3位まで、①～③は最小値から3位までの数値

3) 【 】内は22年基準以外

生産能力－稼働率の循環関係(平成22年＝100)

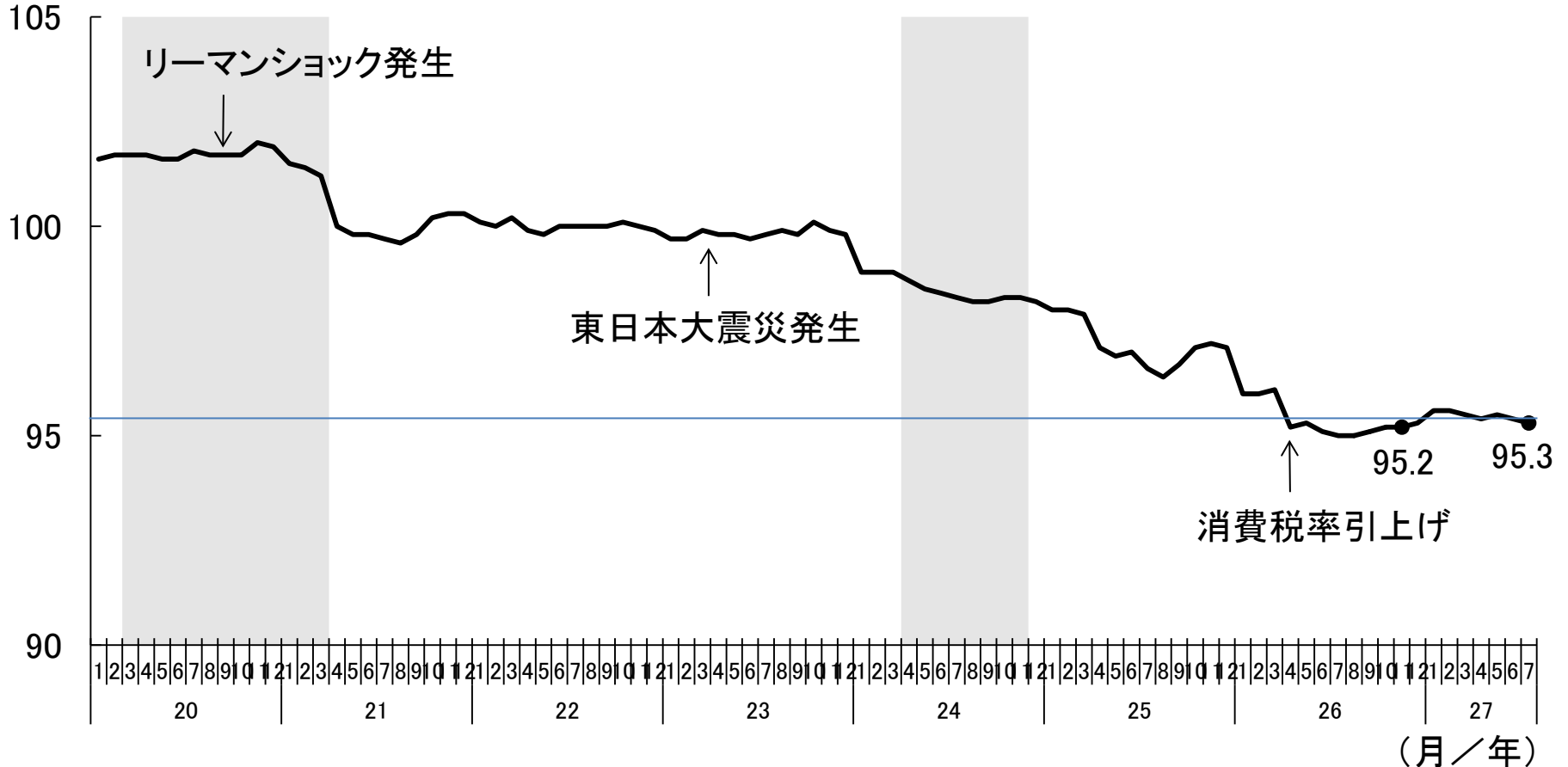


(注) 27年Ⅲ期の稼働率指数は、平成27年7月実績。生産能力指数は平成27年7月末。

製造工業生産能力指数の動向

- 平成27年7月の生産能力指数は95.3(前月比▲0.1%)と2か月連続の低下。
- 平成26年11月の95.2以来の水準。

(22年=100)



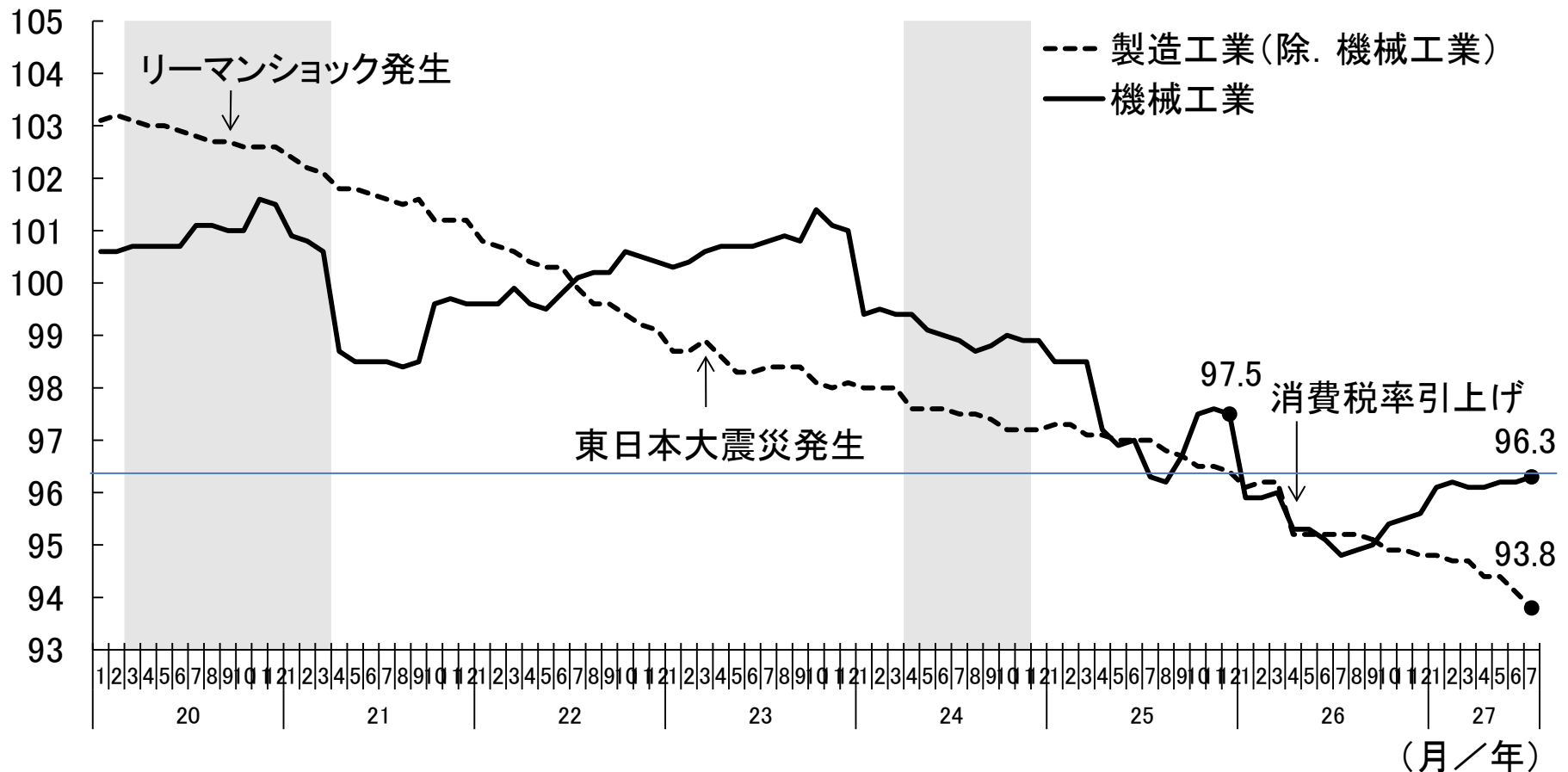
(注) 1. 製造工業生産能力指数とは、月々の製造工業の生産能力を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもの。

2. シャド一部分は景気後退局面。

製造工業(除.機械工業)と機械工業の生産能力指数の動向

- 平成27年7月の機械工業は96.3(前月比0.1%)と2か月ぶりの上昇。
平成25年12月の97.5以来の指数水準。
- 一方、製造工業(除.機械工業)は、93.8(前月比▲0.3%)と2か月連続の低下。

(22年=100)

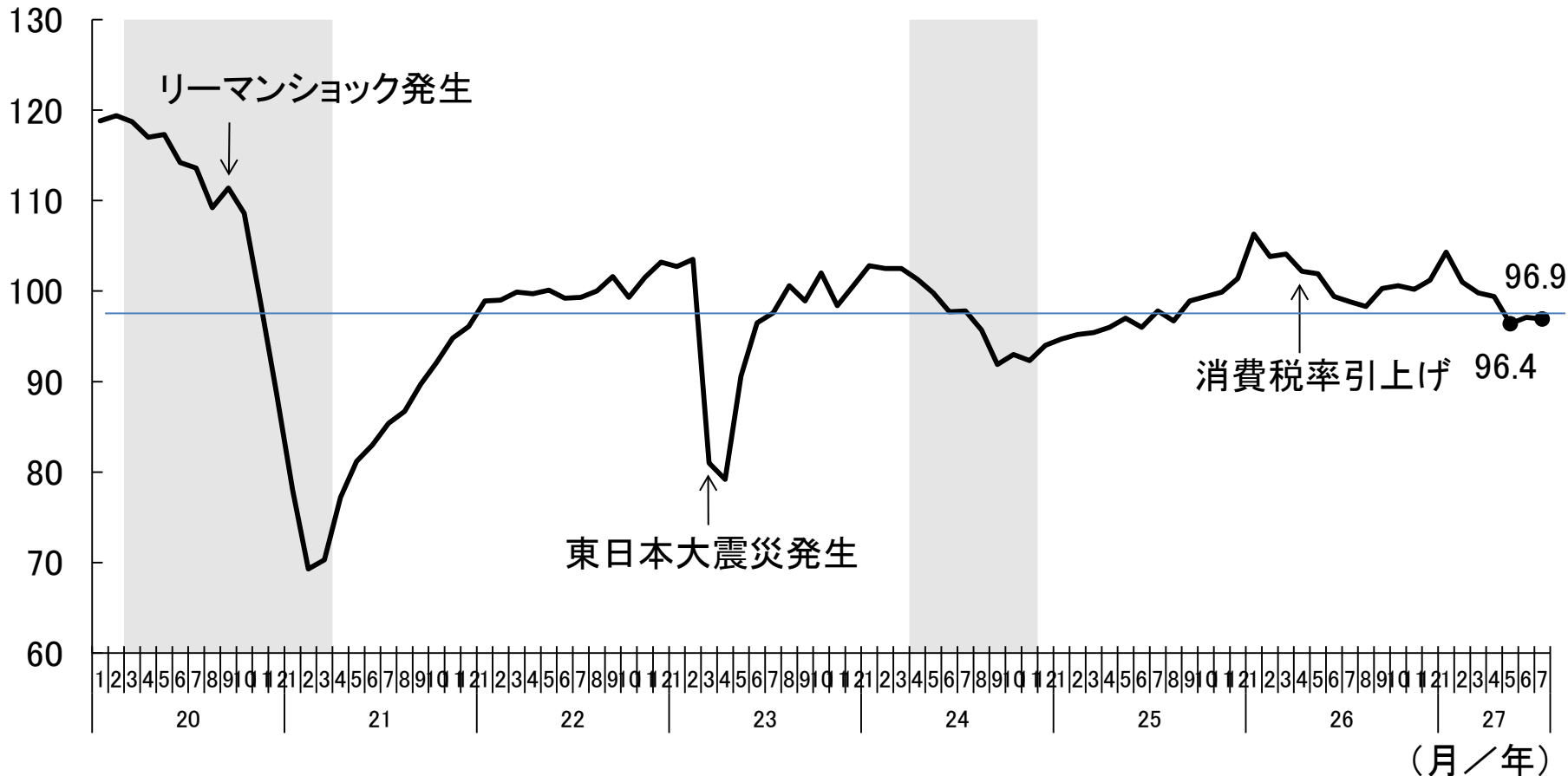


(注)シャドー部分は景気後退局面。

製造工業稼働率指数の動向

- 平成27年7月の稼働率指数は96.9(前月比▲0.2%)と2か月ぶりの低下。
- 平成27年5月の96.4以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



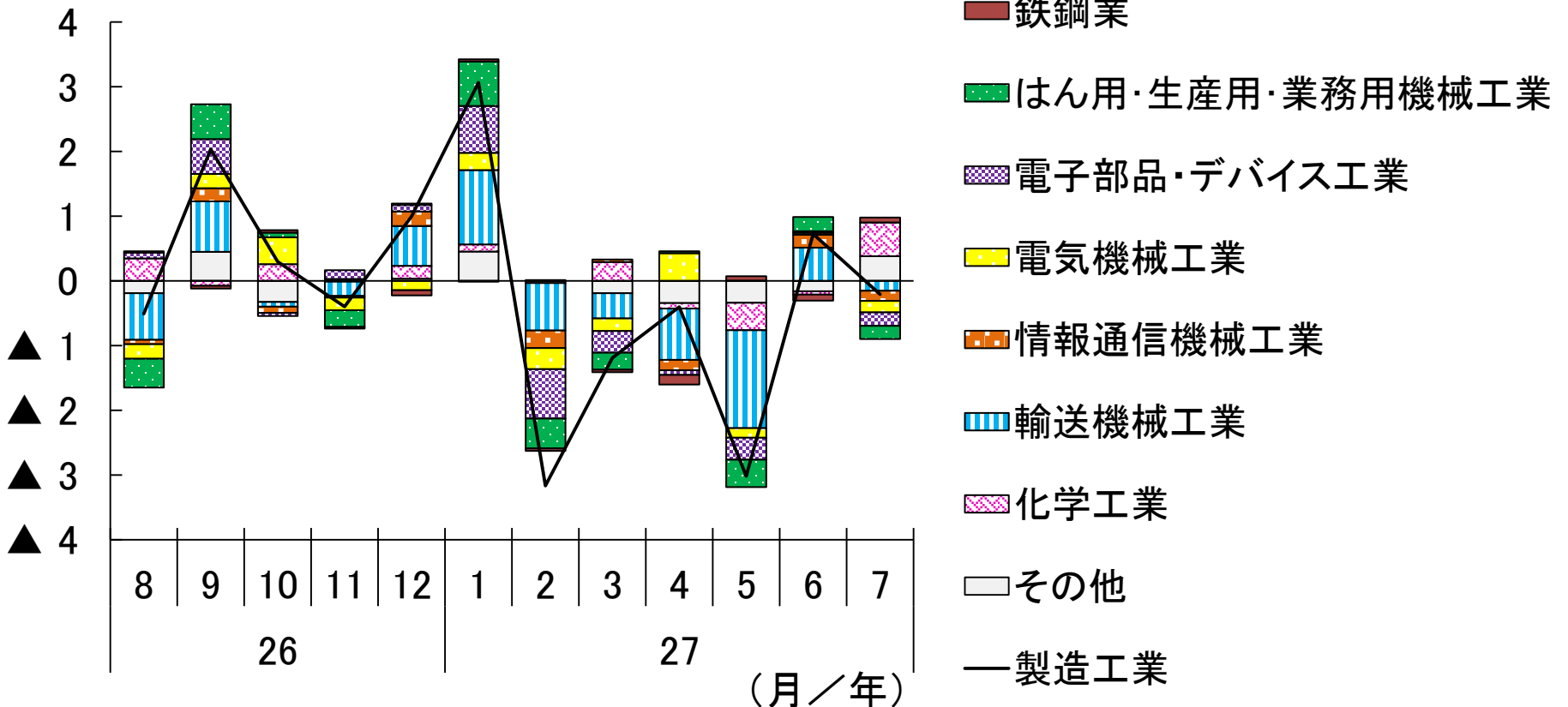
(注) 1. 製造工業稼働率指数とは、月々の製造工業の稼働率を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもの。

2. シャド一部分は景気後退局面。

稼働率指数への業種別寄与度分解

- 平成27年7月の稼働率指数(前月比、季節調整済)は、化学工業等が上昇したものの、電子部品・デバイス工業やはん用・生産用・業務用機械工業などが低下したため、前月比▲0.2%の低下。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

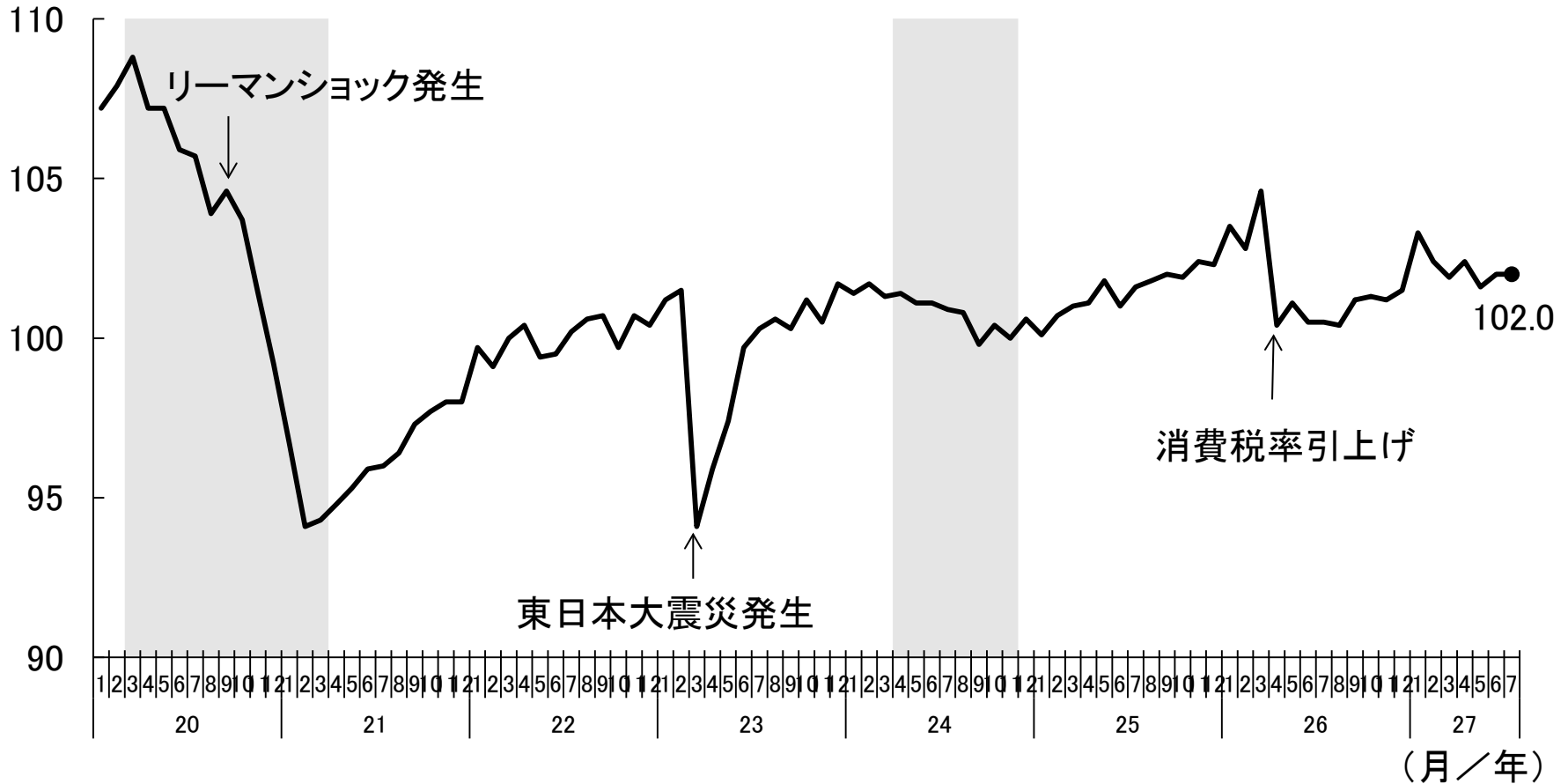


(注)その他には、非鉄金属工業、金属製品工業、窯業・土石製品工業、石油・石炭製品工業、パルプ・紙・紙加工品工業、繊維工業、その他工業が含まれる。

統合指数(試算値)の動向

- 平成27年7月の統合指数(試算値)は、102.0(前月比0.0%)と横ばい。

(22年=100、季節調整済)



- (注) 1. 統合指数(試算値)は、鉱工業生産指数及び第3次産業活動指数の季節調整済指数を全産業活動指数のウェイトで加重平均することにより算出。
2. シャドー部分は景気後退局面。

統合指数(試算値)に対する産業別寄与度分解

- 平成27年7月の統合指数(前月比、季節調整済)の内訳をみると、第3次産業活動は前月から上昇(前月比寄与度0.15%ポイント)したものの、鉱工業生産は低下(同▲0.17%ポイント)したため、前月比0.0%の横ばいとなった。

(季節調整済、前月比、%、%ポイント)

